

当事者ができること

エンジョイポリオの会
森山 幸恵

今年もとても暑い夏でした。雨が降ったら線状降水帯が発生し大雨となり、洪水や土砂崩れの被害が発生。晴れたら 35℃以上の猛暑日。それが当たり前の夏になりつつあるように思います。子どもの頃は 30℃超えたら暑いと感じて、でも夕立後はずっと空気が涼しくなっていたという記憶があるのに、たった 60 年ぐらいの間にこんなに気象状況が変わったことが怖いのです。電化が進み自分自身便利な生活を享受しているのに何も言えませんが、人間も地球上の生物の一種。そのうち絶滅危惧種になるかもしれませんね。

11 月日本リハビリテーション医学会秋季学術集会が宮崎県で開催されます。産業医科大学リハビリテーション科蜂須賀明子先生から、アンケート結果を患者間だけにとどめておくのはもったいないので、学会で使わせて欲しいという申し出がありました。当事者の立場で、アンケート調査の経緯やまとめ、医療者へ期待することなどについて発表して欲しいとの依頼でした。ポリオネットワークの柴田さんがシンポジストとしてアンケートについて発表します。医学的な立場からは産業医科大学リハビリテーション科の蜂須賀明子先生がアンケートの分析について発表します。学会という場で結果を報告し、医療者に私たちの現状を知ってもらい情報を共有することで、よりよい診断やリハビリに結びつけばいいなと思っています。

もう一つ。同じ 11 月に義肢装具士会九州地区の研修会が熊本で開催されます。会員さんから、“カーボン装具の作成方法や手順を具体的に学びたい”という要望があったそうです。研修会の午前中は荒井義肢製作所荒井さんの作成方法や手順の講義、午後からは装具の型取りから仮装具を使ってのカーボンを流して完成させる一連のプロセスを学ぶというものです。装具の型取りのモデルをお願いしたいとの相談がありました。人前で型取りをすることは恥ずかしいし抵抗も無きにしも非ずでしたが、うちから信号が 2 個、車で 10 分弱のところに住んでいるので私が引き受けました。少しでもカーボン装具を作る義肢装具士さんが増え、仲間が歩きやすくなるといいという気持ちも引き受けた理由です。今はカーボン装具よりもっと改善された、より体に負担の少ない装具も開発されているかもしれませんが、とにかくまず、障害サービスの給付対象となっているカーボン装具が普及して欲しいと願っています。

どちらも当事者ができること、というより当事者しかできないことです。自分たち自身のために機会を見つけて対外的に発信したり、できることは行っていきなさいと思いた。